

(八代清流) 高等学校 平成 2 8 年度学校評価表

1 学校教育目標
(1) 感動ある教育を展開し、地域の進学等希望者の夢を地域で叶える学校を目指す。 (2) スポーツが盛んで、文化の香りのする学校を目指す。 (3) 生徒・保護者・地域住民に信頼され、愛される学校を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 生徒の自律(自立)心の高揚を図りながら、生徒一人一人の成長を目指す。 (2) 「プロメ・プラン」を効果的に活用し、生徒の進路実現を目指す。 (3) 保護者や地域住民と連携して特色ある学校づくりを目指す。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	今後の学校経営の方向性の具体化	清流未来創造プロジェクトチームによる提言	現状の把握と課題の整理を行い、5年、10年後を見据えた取組の具体策を検討する。	主任主事から課題を出させ、プロジェクトチームで検討し、各部・学年・教科等に対して、提言を行い、実行に移すための協力を得る。	B	提言により1年次から開設した特進クラスが卒業を迎え、昨年度に引き続き(昨年度は2年次から開設)進路実現に大いに貢献した。特進クラスのこれまでの活動をプロジェクトチームで検証し、意義を確認するとともに今後の取組を検討した。
	安全な学校づくり	安全管理の徹底と整備	危険箇所の把握と早期対応	安全点検を年に2回実施し、安全100%を目標とする。	A	安全点検をとおして、危険箇所の把握と改善を行った。
		危機管理意識の向上	危機管理マニュアルによる意識の共有化	職員研修を実施するとともに、防火防災訓練を実施し、危機管理意識の向上を図る。	B	防災訓練を2回実施することで、職員の危機管理に対する意識を高めることができた。マニュアルの積極的な活用ができなかった。
	地域からの信頼を得る学校づくり	地域及び保護者との連携	保護者からの協力による学校行事の開催	体育大会や文化祭、ハーフマラソン大会等で保護者からの協力を得て、行事を成功させる。	A	学校行事に多くの保護者の参加協力をいただき、行事を成功させることができた。
		生徒による地域貢献	地域行事への協力	地域のボランティア活動に積極的に参加する。	A	多くの生徒が様々なボランティアに参加・活動することで、郷土を大切に思う心の育成ができた。生徒会では、地域のイベントの運営に積極的に参加することができた。

	八代清流高校の評価向上	八代清流高校の周知	八代清流高校のPRの工夫	ホームページの改良や学校説明会のあり方を再検討し、募集定員を満たす。	A	オープンスクールでは終日学校を開放し、日常の授業風景を公開した。併せて学校説明会を開催し、中学校においての説明会ではできなかったより詳しい説明を行うことができた。参加者アンケートでは概ね好評を博した。
		進学重視型単位制の周知	進学重視型単位制の特徴やメリットをPR	教育課程や選択科目を動画やスライドを使ってわかりやすく説明する。	A	進学重視型単位制の特徴に絞ったスライドを上映し、中学生にわかりやすくシンプルに伝えた。選択科目の多さは中学生の印象に強く残ったようだ。
学力向上	わかる授業の推進	職員の授業力の向上	3年間を見通した授業計画の構築と授業力向上のための研修と実践	年2回の公開授業後合評会を実施し、お互い指摘しあうことで授業力を高める。	B	ICTを用いた授業を研究授業とし視覚的に訴える授業の実践を研修した。思考力・判断力・表現力等を深めるための授業の活用等、生徒の「わかる」を高めていくための研修が引き続き必要である。
		生徒の授業理解度の把握	生徒による授業評価の実施	年2回授業評価を実施し、その結果を十分に生かすことで授業力の向上につなげる。	B	評価の結果の活用が教科、本人任せである。学校としての活用方法の検討が必要である。また、思考力・判断力・表現力等を深めるための授業にあわせた評価項目の再考も必要である。
	自学自習できる生徒の育成	生徒の自主的な家庭学習への取組	生徒の家庭学習時間を増やすための工夫と、家庭学習のやり方を指導	年3回の家庭学習時間調査結果をもとに各教科で家庭学習時間増加のための方策を検討する。また、面談週間や家庭訪問を利用して、学習の仕方をアドバイスするよう努める。	B	家庭学習時間調査を契機としてクラス全体で学習についての指導が行われた。1回目の調査に比べて、2回目の調査では1年生は平均8.9分減少したが2年生は変化なし、3年生では6分増加した。
キャリア教育 (進路指導)	進路意識の高揚	生徒の進学意識の改革	個に応じた進路実現と四年制大学への進学希望者の増加	教務部単位制係と連携し、年6回程度行う面談の充実と低学年からの体系的な進路指導に努める。	A	面談や総合的な学習の時間での取り組みにより大学等への進学希望者が増加した。センター試験受験者が6割を超え、最後まで挑戦する生徒が多く見られた。
		望ましい職業観・勤労観の育成	高大連携出張講座やインターンシップへの積極的な参加および資格取得、検定への挑戦を促進	LHRや総合的な学習の時間「プロメ・プラン」2年次のキャリアプランニング活動の充実を図る。	B	課題研究へ取り組む姿勢は概ね良好だったが、個人差が見られた。資格、検定取得やインターンシップ活動への積極的な参加が見られた。
	希望する進路を実現	生徒の進路希望や学力	進路希望調査および模試デ	進路希望調査及び模試結果の分	B	調査・分析により問題点の把握等、情報を共有で

	現するための学力等の育成	等の的確な把握と指導	一夕の有効活用。課外授業、土曜講座の充実	析を行い、個別面談に生かす。課外・土曜講座の出席率100%を目指す。		きた。今後は面談等を通じて生徒個人の進路意識を高めたい。進路が決まった生徒の課外・土曜講座の欠席が見られた。
		コミュニケーション能力等の育成	小論文指導や面接指導の充実	総合的な学習の時間の活用と、全職員による3年生への小論文・面接の個人指導の実施。	A	2年生までに取り組んだプロメ活動を3年での受験（小論文・プレゼンテーション・面接等）に生かすことができた。AO・推薦入試で多数の合格者を出すことができた。
生徒指導	生徒の自律心と自尊感情の育成	自ら判断し、行動できる生徒の育成	生徒が自ら行動できる環境の整備	生徒が前面に立って自発的に協力して学校行事を運営するよう取り組みを行っている。	B	生徒が学校行事の運営に関わるのはほとんど生徒会が中心であった。また、全校集会時の集まりや私語を慎むことに関しては各クラスできていなかった。
		基本的な生活習慣を確立させる。	時間の厳守 挨拶の励行	欠席数を減らす。朝学習に遅刻させない。	C	例年に比べ遅刻者が年間を通じて目立った。
	明るく楽しい学校づくり	問題行動やいじめのない学校を目指す。	問題の早期発見と素早い対応	アンケート等の調査により、問題を発見し、早期に対応する。	A	心のアンケートの調査の結果を見ても、ほとんどの生徒が楽しく学校生活を送れている
	交通指導の強化	交通マナーの向上	交通講話の実施 二重ロックの推奨	交通講話による交通安全教育を徹底する。月1回の二重ロック点検を実施し、二重ロック100%を目指す。	B	交通講話や交通指導を行ってきたが依然として、一部の生徒の中にマナーを守らない者（自転車に乗りながらの携帯使用）や一時停止、並進などが目立った。二重ロックに関しては、生徒の規範意識が薄く、100%達成は実現できなかった。
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	命を大切にすることを育むプログラムの推進	指導ユニットに従って、心に響く多様な指導を実施	全教科全領域で「生徒の命を大切にすることを育む指導を実施する。	A	全教科及びホームルーム、講演会等でクラスや学年主導により、概ね計画どおり実施できた。
		自分の夢や目標を持たせ、人の役に立つこと・尽くす姿勢を身に付けさせる。	全学年で総合的な学習の時間を利用し、「プロメ・プラン」を実施	将来の目標の設定、自分の考えの発表、目標達成のための具体策を考えさせる。	A	プロメ・プランを活用して自己の生き方を見つめさせ、自己肯定感を高めるために全職員がよく取り組み、目的を達成した。
	職員の人権意識の高揚	職員研修の充実	校内研修会の計画的な実施及び外部研修会への積極的な参加	地域で実施される研修会への参加率向上を目指す。夏休みや休業日の校外研修会への積極的な参加を促す。	B	校内研修を予定どおり実施し、効果があった。八代地区人権集会や現地研修会への参加者は昨年よりも増加したが、他の校外研修会への参加者が増えず、参加機会の確保が課題である。
	生徒の人権意識の高揚	豊かな人権感覚を身に付けた生徒	LHR等による人権教育の充実	校内推進委員会による教育内容の検討と指導の	A	人権教育は計画どおり実施でき、生徒からも人権の大切さについて学ぶ機

		の育成		工夫、改善に努める。		会が増えたと回答があったが、さらなる内容の充実を図る必要がある。
いじめの防止等	いじめの早期発見	生活アンケートによるいじめの早期発見	生徒・保護者へ3回(1・2年生)、2回(3年生)のアンケートを実施	定期的にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	A	心のアンケート結果から、いじめを早期に発見することができた。また、担任や学年の対応が早く、問題解決の糸口を見つけることができた。
		担任との面談によるいじめの早期発見	アンケート調査後すぐに担任との面談長期休業後等に担任との面談	担任の面談だけでなく、全職員が普段の学校生活の様子を観察し、いじめの早期発見に努める。	A	各担任の早めの対応ができていて管理職やソーシャルワーカーとの連携もとれていた。また全職員で学校の実態を把握し、いじめの予防対策をとることができた。
	いじめ根絶への取組	生徒会によるいじめ根絶の宣言 いじめ問題対策委員会の活性化	「心のきずなを深める月間」における取組の充実 いじめ事例解決率100%	生徒会で「いじめ撲滅標語」を募集し「いじめ撲滅宣言」を作成する。 職員研修を実施する。 いじめ問題対策マニュアルの徹底を図る。	A A	生徒会を中心とした「いじめ撲滅標語」を作成し、「いじめ撲滅宣言」を実施することができた。 職員研修を実施しいじめ問題対策マニュアルの徹底を図ることができた。

4 学校関係者評価

八代清流高校の特色である進学重視型単位制として、地域の進学希望者の夢を地域で叶えるため、今後もさらにきめ細かい指導を続けてほしい。プロメ・プラン(総合的な学習の時間)として課題研究に取り組んでいるが、今後はディベートのような議論をする中で、論述力や表現力を身に付けさせてほしい。

センター試験受験者数が100名を超えており、国公立大学の合格者数が、開校以来最高となっている。今後も進学実績を上げ、さらに上級学校卒業後に地元就職・活躍する人材を育成してほしい。

生活面に対して、生徒自身が注意の呼びかけをするなど、生徒が主体的に行動できるようにしてもらいたい。また、時と場所・状況に応じた挨拶等ができるように教育してもらいたい。

5 総合評価

生徒自らがルールを守る意識が高く、その上で約90%の生徒が学校生活を明るく楽しく送っている。平成28年熊本地震を経験することで、命を大切にすることや人権を大切にすることの意識が高まってきた。また、自主的に災害ボランティアに参加する生徒が増えるなど、助け合う心が育った。

高大連携大学出張講義や九州内の大学訪問を行ったことで、大学進学に対して高い目標を持つようになった。また、1年次から特進クラスを設置した学年が卒業するに当たり、開校以来最高の国公立大学の合格者を出すことができた。

生徒募集用のチラシ(宇城・八代・芦北地区の全52,000世帯へ配付)を例年通り作成するとともに、学校HP、学校新聞(清流だより)の充実を図った。

6 次年度への課題・改善方策

少しずつ自主的に学習する習慣ができつつあるが、学習に対して、ほとんどの生徒が与えられた課題等をこなすという姿勢である。思考力・判断力・表現力等を深めるための授業を取り入れるなど、生徒が主体的に取り組める「わかり、考える授業」を目指していきたい。

進学重視型単位制の特色を生かすとともに、特進クラスを設置することにより、国公立大学をはじめとする4年制大学に多くの生徒が合格することができた。さらに、国公立大学や有名私立大学に合格できる学力を身に付けさせたい。そのために、特進クラスの取組の検証をするとともに、進路指導部を中心に3年間を見据えた進路指導計画を作成し、組織的に実行していきたい。

学習面だけでなく、学校行事や部活動等、学校教育全体を通して社会が必要とする人材育成を図りたい。

また、生徒数の確保が本校の課題であるため、広報活動のさらなる充実を図り、生徒募集につなげていきたい。